

くす通信

第224号
2019年10月1日

国立病院機構熊本医療センター 発行

薬剤部より

入院支援室における 薬剤師の役割

薬剤師より

くすりの正しい使い方



10月

「くす(樟)」の由来について

くす(樟)は常緑の広葉樹で、熊本城内に多く見られます。種々の精油成分を含み、良い香りがします。樟脳をはじめ色々な薬用成分が抽出されるなど有用な薬用樹でもあります。

また、くすし(薬師)とは、医師のことを指し、くすしぶみ(薬師書)は医術に関する書物のことを言います。

本誌はこの「くす」にあやかり、健康な生活を送るために情報を提供しております。お気軽にお読み下さい。

薬剤師から説明!

くすりの 正しい使い方



薬剤部
薬剤師
としまひろ
床島英雄

近年、セルフメディケーション(自己治療)が進む中、薬はドラッグストアやコンビニなどでも購入できるようになり、より私たちの身近なものとなっています。しかし、薬に関して意外と知らないことや分からないことが多いのではないのでしょうか。そこで、薬を正しく理解し使用するために知っていただきたいことをいくつかまとめてみました。



1 薬は何で必要なのか

人間の身体には、病気やケガから身体を守るために「自然治癒力」というものが備わっていますが、疲労やストレスなど様々な要因により、この「自然治癒力」が十分に働かないことがあります。そのような時に病気やケガの回復を補助したり、原因を取り除いたりする目的で薬が使用されます。世の中の薬は1つ1つ有効性や安全性について国の審査を経て、適切な用法用量が設定されています。そのため、薬を安全に使用するためには、決められた回数、時間、量を守ることが大切になります。

2 薬の用法について

薬の服用タイミングとしては食前、食後、食間といろいろありますが、



食前とは食事の約30分~1時間前を指し、食後は食事が終わってから30分以内のことを、食間は前の食事から約2時間後の食事の間を指します。薬によっては食事の影響を受けるものがあり、正しい用法で服用しなければ本来の薬の効果が出ないことがあります。服用のタイミングについてもきちんと確認しましょう。

3 薬の副作用について

全ての薬は目的とする主作用と好ましくない副作用を併せ持っており、正しく使用していても副作用が発現することがあります。万が一、薬を服用し、いつもと違う症状が現れたら、早めに医師または薬剤師に相談してください。

4 薬の使用期限について

全ての薬には使用期限があります。原則は、医師より処方された薬をそのときに飲みきることが重要です。薬局等で購入する一般用医薬品については、外箱の使用期限をご確認下さい。(この場合の期限は未開封の場合を示しています。)用法用量を守って開封後はなるべく早く使いましょう。

薬の保管場所は、高温・多湿・直射日光を避け、子供の手の届かないところを選びましょう。薬によっては冷暗所での保存が必要なものもありますので、保存方法についてもきちんと確認しておきましょう。

「くすり」はその文字を逆さから読むと「リスク」となるように、間違った使い方をすると身体にとって害を与える物質へと変わってしまいません。医師から指示された用法用量をきちんと守って、お薬と共に健康な毎日を過ごしていきましょう。



入院支援室における 薬剤師の役割

国立病院機構熊本医療センター
薬剤部 主任薬剤師（製剤主任）

さかた こうへい
坂田 光平



2018年1月から手術のための入院予定患者さまを対象に、外来の入院支援室にて薬剤師による「術前中止薬のチェック支援」を開始いたしました。

1 チェック支援の目的

2018年度診療報酬改定により入院予定患者さまに対する服薬中の薬剤の確認などを評価する「入院時支援加算」が新設されました。現在、入院を予定されている患者さまへ安心・安全な医療を提供するために、外来受診時から薬剤師による薬の面からの患者支援が強く求められています。この様なことは手術延期・中止を回避することにもつながります。



具体的な業務内容をご紹介します。
外来時に手術日および入院日が決まった患者さまは、入院支援室において入院の事前説明を受けていただきます。併せて薬剤師が面談を行います。

2 手術前の持参薬の確認内容

・現在、服用されている薬剤の内容や服用状況

手術前に中止する必要があるもの（例えば、抗血小板薬等や一部の健康食品など）が服用されてい

ることが判明した場合には、主治医に連絡を取り、中止の指示および中止期間を確認し患者さまへ説明しています。

- ・患者さまの薬剤に対する副作用歴やアレルギー歴
- ・食物アレルギーや飲酒および喫煙状況

これらはすべて手術に影響のある情報であり、より適切かつ安全な医療が提供できるよう薬剤師もサポートしています。

術前服薬確認内容



現在服用している薬の内容や服用状況の確認



薬の副作用歴やアレルギー歴の確認



食物アレルギー・飲酒・喫煙状況の確認



入院支援室

薬剤部の紹介

薬剤師 33名、薬剤助手 3名で構成しています。薬学的な専門性を活かして調剤や注射薬の無菌調製などに加え、薬剤管理指導、病棟薬剤業務、周術期管理業務を行い、入院患者さまへ良質で安全・安心な薬物療法の提供を行うべく日々努力しています。また、外来においても術前中止薬等の管理と抗がん剤治療の患者さまへの薬の説明や相談を行っています。さらに調剤薬局等の医療提供施設との連携にも力を入れています。



方針

最新の知識・医療技術と礼節をもって、良質で安全な医療を目指します

認定機関

実務実習研修施設 日本医療薬学認定研修施設
がん専門薬剤師研修認定施設
薬物療法専門薬剤師研修施設
小児薬物療法認定薬剤師制度必須実務研修施設

国立病院機構熊本医療センター

- 診察日 月曜日～金曜日
- 休診日 土・日曜日及び祝日
年末年始（12月29日～翌年1月3日）
- 受付時間 8：15～11：00
〒860-0008 熊本市中央区二の丸1-5
TEL 096(353)6501(代表)
FAX 096(325)2519
H P <https://kumamoto.hosp.go.jp/>

※ 形成外科の受付は、水曜日以外の 13：30～16：30 となります。

※ 一部の科では、午後に予約診療を行っていますが、新患、予約のない方の午後診療は行っておりません。急患はいつでも受診できます。